

年をとっても いじやない
恐^{おそ}老^{らう}の活をきいていろと

歯が二百本あつたのが本がへり一ヶづつ
が丈夫くなくなり ついには歯がふらふら
やばしにならうぞ 口ばしで物をたべると
ハフて来るが 又のびて来るとのこと
ころいふさつ 尻こまが わかるのはすごい
人間も人体のどこかにその形跡があるのでは
と思つて居る

年をとってくると 顔も人体も変わって行く

かがみで自分を覚えていろと

これかそうだと 思うことはある

頸蓋骨が小さくなる すると表面の皮ふの

行き場がなくなる 変化する

若い時のさうに代射がいきとどかない 筋肉

のしりたなり ちりちりと小じりたなる

筋肉の変化は 口元がブルブルする

や、 骨がニクトリの コケツツとなく

骨とろつくりになる

とりや犬に えてくるのは先祖が受けて

人間に在る前は 土にかゝる金き物だつた
思うように安かたしい 既知もろた

こうやつて見て行くと 年をとるのも

ふもしろい

しかも自分でそれを見ること 不吉案了

たれしも年をとる それを不吉案了

だがそればかりではない

変化をしろわり見ると とうとう二と不吉案了

人々の世の動きも 元々の正通りには作りにあらず

こと 不吉案了 多少変化して行く

それが変化だ

ウリニクへ行き それは五年どうかし

と言われたりする 今の通りと 結果はあらず

年月がすおふこと かくよくふ するにと

はあ

2626
11/7